



怡土人権だより

令和3年度
第1号
6月15日発行

発行：糸島市人権・同和教育推進協議会 怡土支部

略称【市同協怡土支部】
☎ 092-322-7815

【令和3年度前半の主要事業】

- ・4月17日(土) 行政区推進委員研修会
- ・5月15日(土) 第1回怡土支部理事会
※コロナ感染拡大防止のため中止
- ・5月22日(土) 市同協怡土支部総会
※コロナ感染拡大防止のため書面総会
- ・6月15日(火) 「怡土人権だより」
第1号発行
- ・7月3日(土) 同和問題啓発強調月間
怡土支部「人権講演会」
※コロナ感染拡大防止のため延期
- ・7月10日(土) 糸島市中央講演会
※コロナ感染拡大防止のため中止
- ・7月17日(土) 解放学級との交流会
- ・7月30日(金) 福岡県夏季講座
- ・8月上旬 3支部交流会 
- ・8月28日(土) 糸島市
人権・同和教育研究大会
※コロナ感染拡大防止のため中止

「コロナも終息に向かうのでは」という期待は、はかなくも外れている現状ではあります。接種も始まり終息にむけていくべくかの希望が見えて来ているこの頃でもありません。

そのようななか市同協怡土支部としましては、ぜひとも総会を開きたいと準備を進めてきたところであり、5月14日に市役所からの「コロナ感染拡大に伴



3年前の総会後の研修模様

う各種会議等の中止の指示が発出されましたので、書面による総会に切り替えることと相成った次第です。

皆様もご存じのとおり、新型コロナウイルス感染に伴う各種差別事象も発生し、人権活動の重要性がマスクミ等でも取り上げられるなか、構成団体の皆様と一堂に会して論議を尽くせなかつたことに対しては、非常に残念な思いでいっぱいです。



感染された方やその家族への差別・中傷

令和3年度活動について

— コロナに負けない活動を —

【令和3年度後半の主要事業】

- ・9月26日(日) 第11回
 怡土ふるさと文化祭
(活動報告展示参加)
- ・11月15日(月) 「怡土人権だより」
第2号発行
- ・11月25日(木) 視察研修
(視察先未定)

- ・12月5日(日) 人権週間行事
人権映画祭
(作品は未定)

- ・2月19日(土) 第2回怡土支部理事会
- ・3月15日(金) 「怡土人権だより」
第3号発行

お知らせ

「人権講演会」

演題「よき日のために

糸島市の市同協の

主要事業は、例年と大きくは変わりません。しかしながら、コロナ禍による延期や中止とせざるを得ないこともあるかと思えます。

それでも何とか実施に向けて努力して参りたいと思えます。

尚、このような状況であるからこそ、広報活動において、皆様へ各種問題点の本質をお知らせしていくことで、人権活動の重要性や考え方等の啓発につながっていきたいと考えているところです。



外国出身者への差別やネットなどでの誹謗

広報委員も務めておられる西原茂徳先生にお願いして、部落解放運動の歴史的事実を学ぶことにより、部落差別の本質と運動が社会にもたらした成果についての理解も深める講演会にするために準備しています。

開催時期は未定ですが、コロナ感染の状況を見ながら安全を確保するために事前予約制で開催する予定としています。

ご参加を待っています。



【支部長 伊東山】

あいさつ運動の歴史について



前原東中学校でのあいさつ運動

前原東中学校で「あいさつ運動」が始まってから、もう30年ほどになるのではないかと思います。

始めたのは、前原東中学校のPTAの皆さんと聞いています。

中学校が荒れていた時期、我が子たちを見守るため、勇気をもって廊下に立たれたそうです。

この親たちの思いがやがて生徒たちに伝わり、加えて、生徒会・学校と一体になった取り組み等で次第に落ち着きを取り戻していったと伺っております。

この時、見守りを止めず、あいさつ運動として継続されたことが今につながっています。



令和3年度理事 及び 団体名等

支 部 長	伊東山 秀水 (校区指導員兼任)
副支部長	井上 和雄 (区長会長)
運営委員	山田 一郎 (校区指導員)
運営委員	林 豊己 (井原区長)
運営委員	藤山 裕志 (人権擁護委員)
運営委員	平田 達男 (前原東中学校)
運営委員	山口 裕之 (怡土小学校)
監 事	平野 昭憲・藤田 忠男
事 務 局	怡土コミュニティセンター

【広報部会】

井上修一郎 (瑞梅寺)、三島倉成 (井原)
塩田秀一 (三雲)、三苫茂代 (曾根)
井上日出海 (井田)、手島陽一 (高来寺)

【研修部会】

三浦洋 (大門)、大神一人 (高祖)
中村禎孝 (末永)、山崎勝広 (西堂)
谷口賢一 (王丸)、中村孝明 (川原)

【構成団体】※順不同

怡土小学校、怡土小学校 PTA、民生・児童委員会
前原東中学校、前原東中学校 PTA、体育委員会
シニアクラブ連合会、身障者福祉協会、校子連
青少年育成指導員会、校区社会福祉協議会
人権擁護委員、社会教育委員、保護司会



「動」であることが解って頂けると思っています。

「常に優しく見守られている」という環境は、人に勇気を与えてくれます。

勇気は力となり、前進するという行動や前向きに考えることにつながっていきます。

今日では、区長会、民生・児童委員会など、地域をあげた見守り運動にまで発展していますが、子どもたちのさらなる幸せにつながるため、怡土支部と致しましても継続して取り組んでいきたいと考えています。



怡土小学校でのあいさつ運動

『歴史の過ちに学ぶこと』

私たちは、20世紀に起こした二度の世界大戦の体験をふまえ、平和の尊さと人権の大切さを学んだ。

そのことは、しっかりと心の中に刻まれているはずだ。

だが、古くは、大正12年に発生した関東大震災、時を経て平成23年の東日本大震災、直近では平成28年の熊本地震など、挙げればきりがなが、このような大災害などのたびに深刻な人権侵害事案が発生した経緯がある。

そして今、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症。

感染者や医療従事者などとその家族への誹謗中傷や差別事象



が数多く報告されている。

「人が人を差別することは許されない。」ということは多くの人がよく理解している。

しかし、このような事態が発生したとき、人びとは強い不安や絶望感で怯える。

本来なら、人と人が支え合わなければならぬとき、人を傷つけてしまう言動に向かいやすいのはなぜなのだろうか。

人の「こころ」は複雑だ。単純ではない。

視点を変えれば、だからこそ人間なのかも知れない。

しかし、そうであっても、人権は守り合うべきものだ。

糸島市のホームページを見てほしい。

「市長室」のバナーをクリックすると、「新型コロナウイルス」に関して、市長が「メッセージ動画」を市民にむけて発信している。

その動画の最後は、こう結んである。

『新型コロナウイルス感染症は、誰もが感染する可能性があります。正しい情報に基づく冷静な行動と人権への配慮を市民の皆様にご配慮をお願いいたします』と。

歴史の過ちに学び、今、私たちはこうありたいと思う。

